

真理と摂理の働きをすべて学ぼう

「虹の掛け橋」第1巻

はじめに

私は28歳のときに特定疾患^{とくていしっかん}を病みました。病状は年々酷^{ひど}くなる一方でしたので神仏に救いを求めました。仏教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教などの教典を手当たり次第に読み、そして持っていた財産（お金、時間、体力）を、行^{ぎょう}を通して、すべて天地に捧^{ささ}げてきました。そして神仏に祈りました。「この命を捧げ、神仏の手足となって行じますから、どうか病気を治してください」と。しかし、神仏は私が苦しみ泣き叫^{さけ}ぼうとも、黙^{もく}っていて決して願いを叶^{かな}えてはくれませんでした。なぜなら、命を捧げますと言うことと、病気が治り生き続けたい（命を頂きたい）と言うこととは矛盾していたからなのです。神仏は私の心の紋様^{もんよう}を観^みていたのです。

私は病気を抱えながら行を続けているうちに、自分の願いと言うものが薄らいでゆき、次のように考えました。「毎朝3時に起きて行っている。これは神仏の加護^{かご}の賜^{たまもの}ではないか。健康な人でもこれだけの行に耐えられるだろうか？ 病気を背負っているものの、何ら健康な人と変わらず行ずることができている。これは病気が治ったも同然である。私よりも具合の悪い人や辛い境遇^{つらきょうぐう}で苦しんでいる人がたくさんいる。神様仏様、私の積んできた徳分^{とくぶん}をこの人たちに捧げます。どうか私の徳分を使って、これらの人たちを幸せにしてください」と。このような心境になったとき、完治したのです。

私は富士山のように徳を高く積むことを目指し、積んだ徳分を自分の病気を治すために使おうとしていたのです。積んだ徳分は自分のためには決して使えないのです。自分のために使おうとしたとき、徳分は我欲^{がよく}によって醜^{みにく}く濁^{にご}ってしまい、もはや徳分ではなくなるからです。

世のため人のためと積んできた徳分は、最後まで世のため人のため(苦しんでいる人を救うため)に使って初めて徳分が活かされる(使える)ことを、身をもって学んできたのです。

私の病気は特定疾患ですから、世界中の名医を回っても治してもらうことはできません。お金をいくら積んでも治せません。徳を積み、この徳分でしか治せないのです。治療方法もない、お金も募金箱等に全部布施してしまっていて持っていない、つまり徳分は私の「命の綱」だったのです。この「命の綱」を人に譲ったとき、命が(病気を治して)頂けたのです。これが、この宇宙を貫き凜として美しく存在する真理と摂理の働きとの最初の強烈な出合いでした。そして、私が「命の綱」を人に譲れる心境になるまで、神仏は黙って観守っているだけで決して手は出さなかったのです。

私が宇宙や大自然から学んできたこと、気付いたことなど、真理と摂理の働きを中心に、冗談話をほんのちょっぴり交え、心の赴くままに綴りました。これを読まれる方々の、天国・喜び・光・温もり・愛・知恵・勇気・希望・平和・調和・秩序・真理の美しく爽やかな世界への虹の掛け橋となることを祈りながら。

2020年3月30日

(著者) 宇都宮 大地

真理と摂理の働きをすべて学ぼう

「虹の掛け橋」第1巻 目次

はじめに.....	1
第1章 大自然のリズムに習う.....	7
1 太陽が手本 その1.....	7
2 ノアの箱船（命の綱）.....	8
3 数.....	9
4 方角.....	11
5 食器をお下げ ^さ してもよろしいですか？.....	12
6 賞味期限.....	13
7 ドーナツと豚の募金箱.....	14
8 風が手本.....	15
9 天国と地獄.....	17
第2章 あらゆるものが繋^{つな}がっている.....	24
1 色即是空、空即是色 ^{しきそくぜくう くうそくぜしき}	24
2 空 ^{くう}	25
3 上流県.....	26
4 自分.....	28
5 同行二人 ^{どうぎょうにん}	29
6 親孝行.....	30
7 先祖供養.....	30
8 不登校.....	32
9 いじめ.....	33
10 太陽が手本 その2.....	34

第 3 章	仏が与えた <small>わら</small> 藁を受け取る.....	36
1	自灯明、法灯明 <small>じとうみょう ほうとうみょう</small>	36
2	無駄 <small>むだ</small>	39
3	句読点と 5 円玉 <small>くとうてん</small>	42
4	鬼怒川と雲 <small>きぬがわ</small>	47
5	ウイルス.....	50
6	呼吸のリズム.....	53
7	無常 <small>むじょう</small>	53
8	旅人と藁 <small>わら</small>	54
第 4 章	青虫が虹色の <small>ちょう</small> 蝶となって大空を舞う.....	60
1	虹.....	60
2	色 <small>いろ</small>	61
3	蝶 <small>ちょう</small>	61
4	牛乳を川に流すとなぜ汚れるの？.....	62
5	占い.....	63
6	コピー その 1.....	65
7	まんじゅう.....	66
第 5 章	仏は人生の達人.....	68
1	手足.....	68
2	難しい.....	69
3	麻雀 <small>まーじゃん</small>	70
4	ゲームの達人.....	73
5	償 <small>つぐな</small> い.....	73
6	日・月・火・水・木・金・土.....	75

第 6 章	最も弱いものがイエスの化身	78
1	税金	78
2	コピー その 2	79
3	煩惱 <small>ぼんのう</small>	80
4	募金箱	82
5	神仏の声	83
6	修行	85
7	喧嘩 <small>けんか</small>	86
第 7 章	閻魔大王 <small>えんま</small> の正体	88
1	中道 <small>ちゅうどう</small>	88
2	救いたい	90
3	空き缶を拾う	92
4	1500 円	94
5	趣味の魚釣り	95
6	願い・祈り	98
7	天地不書 <small>てんちふしょ</small> の教典	99
8	閻魔大王	100
第 8 章	真理とは?	102
1	鬼を仏にサタンをサンタに変える	102
2	真理	104
3	世襲 <small>せしゅう</small> 制度	105
4	法を説く	106
5	命を救う	108
6	仏の子	110

7 仏が現れる	111
8 来世 その 1	114
第 9 章 来世は仏に任せる	118
1 太陽のエネルギーが毒物に変わる	118
2 来世 その 2	123
3 成仏	126
4 地球上の生物	128
5 ご飯が燃える	129
6 病気	133
7 悪い人	134
8 苦勞話	137
9 なぜ空き缶を拾っているのですか？	139
第 10 章 仏が与えた稲穂を受け取る	143
1 拘 <small>こだわ</small> らないこと	143
2 等価	146
3 本願に出合う	149
4 仏の化身	152
5 色即是空	155
6 空即是色	157
7 仏との対話	159
あとがき	162

